

歌麿通信 「歌麿とは」

日本を代表する浮世絵師・喜多川歌麿は、どこで生まれ、どこで育ったのでしょうか。江戸、京都、栃木などの説がありますが、定説はありません。一七五五（宝暦五）年から五八（同八）年ごろに生まれ、一八〇六（文化三）年に五十代で亡くなったことは分かっています。

狩野派の門人だった鳥山石燕の元で学び、二十代で浮世絵界にデビュー。版元の蔦屋重三郎と組んで、人物の顔を中心に描く大首絵を考案し、女性の表情や内面までも描いて美人画の第一人者として一世を風靡しました。歌麿によって描かれた遊女や花魁、茶屋の娘たちの名前はたちまち江戸中に広まるほどでした。歌麿は、豪商・善野喜兵衛（狂歌名・通用亭徳成）をはじめ栃木の狂歌師たちと親しく、何度も栃木を訪れ、大作「雪」「月」「花」などたくさん肉筆画を描いたといわれています。

晩年、豊臣秀吉を題材にした作品で幕府の逆鱗に触れ、手鎖五十日の刑を受けて死期を早めたといわれています。歌麿のお墓は東京都世田谷区の専光寺にあり、入口に「都旧跡 喜多川歌麿墓」と彫られた石碑が建っています。墓石には「歌麿之墓」の文字があり、台座に大きな文字で「北川」と彫られています。歌麿には子孫がありませんが、いまもお墓にはたくさん花が飾られています。お寺で花をあげているとのこと。



▲歌麿のお墓(世田谷区専光寺)

探しています。歌麿に関する情報!! ★提供は 文化課 歌麿担当 (☎21-2426) へ

幸せを求めて

問合先 人権推進課
☎24-2444

「望ましい集団」の中で

数年前、「学校教育で子どもたちに身に付けさせたい力は何か」などについて、全国的な調査が行われました。それによると、「周りの人と仲良く付き合う力」や「良いことと悪いことを区別する力」など、社会性を育むことが重要であると、子どもも親も教員も、それぞれが強く感じているという結果が出ました。社会性の育成は、いつの時代であっても重要です。そして、人はそれを集団の中で、互いに共感したり認め合ったりしながら身に付けていきます。

学校では、学級を中心に、子どもたち一人ひとりの違いや個性が尊重され、大切にされる「望ましい集団づくり」を基盤に、人権教育の推進に努めています。仲間づくりの第一歩として「あいさつ運動」を充実させたり、友達の「いいところさがし」などでお互いの良さを認め合ったりしながら、「望ましい集団づくり」を進める活動が、多くの学校で実践されています。

これからも、学校・家庭・地域の連携を大切にしながら、「望ましい集団」の中で豊かな人間性や社会性を育み、一人ひとりの人権が尊重される社会を目指していきます。